



う な ば ら 海原

題字河原孝好先生

海城中学高等学校同窓会誌

発行

2021年12月10日

第54号

海原会

発行人 徳光和夫

編集責任者 小西洋也

〔海原会事務局〕

〒169-0072 東京都新宿区大久保 3-6-1 海城学園

TEL 03-6233-9631 FAX 03-6233-9641

ホームページ URL <http://www.unabarakai.jp>



海原会創立100周年
初のオンライン総会を開催
収録映像とライブで総会の模様を配信

海城学園の同窓会である「海原会」が創立されてから今年で100年を迎えました。引き続きコロナ禍ということもあり、大々的な記念イベントは中止となりましたが、学園の創立記念日の前日にあたる10月31日に、海原会としては初のオンラインによる創立100周年記念総会を開催しました。海原会では100周年を前にこの1、2年どのような記念イベントをやるか特別企画チームを作って検討を重ねてきました。が、新型コロナウイルスの感染拡大という事態に直面して何度も記念行事開催の日時や内容の変更を余儀なくされてきました。昨年の6月の定期総会では中止に追い込まれ、今年も会員が一堂に集う形での総会や式典はできないとの判断から、このようなオンラインでの開催となりました。いまの世代はどなたもパソコンやスマホを使う時代とはいえ比較的年齢の高い方々の間ではなかなかデジタルになじめない人も多く心配な面もありましたが、海原会の新たな100年に向けてのスタートがこのような形で行われたことは逆に記念すべきことかもしれません。特にこれからの海原会を背負い発展させてゆく若い会員たちがそのデジタル知識を活かして今回の総会運営の先頭に立つてくれたことは新しい海原会の船出を象徴するものとなったといえるでしょう。

（森山昭洋 海原会副会長）

※海原会は皆様の会費で運営されております。



皆様こんにちはお久しぶりでございます。コロナ故にリモートで直接お会いできないのは非常に残念ではありますが、今回の総会はコロナの中で行われたオンラインという異例の形の総会となりまして、ある意味では忘れられない記念すべき総会となったのではないのでしょうか。

記念すべき忘れられない総会に

のご苦労また活動、また学校にも感謝申し上げます。とりわけ今日母校の評判はすこぶる高評価を受けておりましてOBとしてもうれしき限りであります。皆さんご存じかと思いますが全国の

しさが全くない。生徒たちが本当にいい形で、青年らしい素直さを持ちながら、遊び心を持つている。実に素晴らしい生徒さんを育てている学校ですね。とお褒めの言葉をいただきました。そんなことも皆さ

原会員は世界中におります。私もベトナムとかタイとか行ったときに現地の会員と交流を持たせてもらったことがあります。各地で皆さん濃密な関係を持つてしっかりとそれぞれメリットも見つけて連絡

95%超えるといえます。女子は一人もいないのです。男子ばかりがつどって卒業してたつた2年しかたつて無いのに喜びや未来のこと将来のこと昔のこと語り合うこんな成人式あったのかと思うほど見事

なものです。海城学園という学び舎でしっかりと積み取ったというその思い出は間違いない人生の宝になっていると思えてなりません。私自身は今全くオール3の生徒ではございましたが、マスメディアにも入れましたのも、そこで若干の成功者の一人として

さて海原会は100周年を迎えました。海軍兵学校の予備校としてスタートして以来今日にいたるまでの卒業生は3万8000人数えらると伺っております。この間海原会も学校も様々な艱難辛苦がございました。今日を築いてきたOBたち

中高校が競う俳句甲子園というのがございますが、近年この大会で海城学園は全国第四位の成績をおさめるなどその活躍はめざましいものがあります。その大会の主宰者である夏井先生が「海城は本当に素晴らしい学校ですね。受験校のいやら

んにお伝えしたいと思います。近年の海原会の活動ですが、若手の会員の活動が活発になって、このようなオンラインの総会を企画実行してくれたのもその若手の会員たちです。この場を借りて御礼申し上げます。また海

また卒業から2年後ですが、学校で成人を祝う会というのも行われています。この会の出席率は

海原会会長 徳光和夫 (昭和34年卒)

海原会100周年記念オンライン総会 のべ2000人がリモート参加

海原会創立100周年記念総会は特設スタジオから津村大樹氏(H20)が司会進行する形で進められました。総会参加者はその模様をYouTubeを通じて視聴する形となっており、またZOOMにつないで同時画面で校歌斉唱に参加したり、同窓生との生でのオンライン交流をしました。総会の第一部では司会者が事前に収録した徳光会長の挨拶や古賀理事長、柴田校長の祝辞を紹介しながら進められ、予算決算報告や活動報告などの通常総会同様の議事報告や最後は吹奏楽団の演奏に合わせての校歌斉唱なども行われました。今回特に100周年記念の特別企画としては、今日までの海原会の運営や発展に尽力していただいた方々、8人と1団体を顕彰し感謝を込めて表彰状を贈呈させていただきました。直接お渡しできないことからこれも事前収録となりましたが徳光会長からそれぞれの方々への表彰理由を紹介しながらの授与する模様を流しました。



総会の主な内容

★第一部 (10:30 開始)

- 徳光和夫海原会会長(S34)挨拶
- 古賀喜博理事長(S33)祝辞 柴田澄雄校長祝辞
- 議事
 - 海原会の現状の活動についての紹介(小西洋也副会長(S41))
 - 海原会の発展に貢献した8個人1団体の表彰
 - 海城学園の現況報告(内田玄司教頭(S56))
 - 2020年度決算および21年度予算と活動報告(国井信男副会長(S62))
 - ZOOMによる参加者の集合写真撮影
 - 海城吹奏楽団による伴奏でオンライン校歌斉唱
- ★第二部 (12時開始)
 - 津村大樹海原会100周年記念事業特別委員(H20)による第130回海城祭の紹介

次で行われた第二部がいわば今回の100周年を記念する企画といえるかもしれません。

オンラインであることの物理的・時間的な距離を超えてつながることを実感させるものであり、特にデジタルを使いこなす若い会員たちの新しい形での海原会活動の可能性を感じさせる構成となりました。平成20年から26年の卒業生9人がそれぞれに学園生活の思い出や現在の仕事や関心事などを語るVTRを紹介すると共に、その後には現在大学2、3年生というさらに若い会員4人と徳光会長とのリモート対談なども行われました。さらにZOOMを通じていろいろなグループや個人が交流できる場が設けられ、OB会や同期会などの仲間が画面を通じてリアルタイムで自由に交流することを実現しました。途中の出入りも含め、このオンライン特別総会にはのべで約200名が参加しました。しかもオンラインですから国内に限らずアジア・ヨーロッパ・南北米・オセアニアなど海外からの参加もあり、新しい形での総会となりました。

(昭和62年卒 国井信男 100周年記念総会実行委員長)



■近況短信リレー(平成20年代の卒業生9人による海城時代の思い出・近況などを報告)

■徳光会長と20才前後の若手会員4人との対談

■ZOOMチャットルームでのOB会、同期会などの自由交流



創立
100周年
おめでとう
ごいま
す。海城
学園役

員教職員在校生とともに心より
お祝いを申し上げます。私自身
卒業生の一員として非常に誇りを

共に元気で好循環の関係を

学園とともに歩まれた100年、
決して平穏な時ばかりではなかつ
たと思っております。どのような

時にも学園に寄り添いともに歩ん
でいただいた、このことは決して忘
れてはいけな喜びのことです

返つてもいま最も活発な時期を迎
えていっていると思います。同期会その
ほかに医業会、士業会など業種別

これらの活動が学園を元気づけ
学園のさらなる発展につながつて
くるものと思っています。

理事長 古賀喜博

(昭和33年卒)

いま社会は大変革を遂げていま
す。その変化のスピードは早くな
り先の見えない部分もあります



海原
会創立
100周年
を教職
員在校
生とも
に心から

お祝い申し上げます。学園の状況
ですが、コロナ禍とはいえ今年4月、
332名の新中学一年を迎えるこ

真のリーダー、コスモポリタンを目指して

校長 柴田澄雄

とができました。現在の生徒数はこ
れで中学988名、高校954名、
計1942名が在籍しております。

ど安定した結果となっております。海
外大学にもジョージア工科大学、ミシ
ガン大学、国立台湾大学に3名進学

では「グローバル化が進展する今の世
の中で真のリーダーとしての資質は
新しい人間力と新しい学力が求めら

れている」と話をしました。今後
どんな分野に進もうと挑戦する勇
気と失敗恐れずにめげない、チャレ

うことも大事だと思います。学内
が一つのチームとして一層の連携、協
力を図りながらリベラルでフェアな
精神を持った新しい紳士の実現に向
けた教育を実現して参ります。海
原会の皆様のお知恵をお借りして
教育の推進に力を注いで参ります。
どうぞ一層のご支援ご指導とご協
力を賜りますようお願い申し
上げます。

海原会功労者顕彰

100周年を記念し長年にわたり海原会に対し多大なご功労があった方々を顕彰させていただきましたのでご紹介し
ます。海原会へのご協力に心から感謝いたします。

●植木昭夫さん(昭和20年卒) 前会長

永年海原会会長を勤め、数々の新機軸を導入
されて会員交流の活発化にご尽力されました。

●立石博己さん(昭和26年卒) 元副会長

海城高校卒業と同時に海原会監査幹事に就
任、海原会活動に参加。特に植木・徳光両会長
のもと副会長として海原会の発展に大きく寄
与されました。

●石原長夫さん(昭和33年卒) 元副会長

立石副会長と共に海原会副会長として広報活動の基礎作りにご尽力
を頂きました。

●小池洋三さん(昭和35年卒) 元副会長

植木会長の下で海原会副会長として役員の役割分担の明確化など組
織再編にご尽力されました。

●大西喜和さん(昭和36年卒) 元学園幹事

海城学園に勤務の傍ら海原会と学園の事務的な調整をしていたたき
総会や会計などの重要事項の基礎作りにご尽力を頂きました。

●大澤英夫さん(昭和31年卒) 元学園幹事

学園の体育科教員として生徒の指導に携わりながら学園幹事として
海原会と学園のパイプ役を務められ良好な関係を築く大きな役割を
果たされました。

●山本満男さん(昭和27年卒) 元会報編集委員

会報「海原」の編集委員を長く勤め、会報の継続と内容の充実をはかる
ことにご尽力を頂きました。

●片山忠美さん(昭和28年卒) 元会報編集委員

山本さんと共に初期の段階から会報編集委員としてご尽力を頂き、今
日までの会報作りに貢献しました。

●湘南海原会

海原会の会員の様々な交流の広がりを見す地域海原会の草分けとして評
価。戦前卒のOBを中心に結成され、その活動は30年を超え続いています。



海原会100周年 @オンライン

高山智司(平成元年卒)

2年前に海原会100周年実
行委員に選任いただきました平
成年卒高山です。コロナ禍で

2年連続総会や学園祭が延期、
中止になる中で苦肉の策で始
まったのが海原会100周年行
事のオンライン開催です。おか

げさまで10月31日(日)に150
名近くの参加をいただき開催し
ました。その準備と背景をご報
告いたします。

オンライン開催までの道のり
はまず最初の「告知」から始ま
ります。「10月31日に100周

年行事を開催」その告知の方法が
「郵送」のみであり、そのほとん
どが卒業時の実家の住所となっ
ているなど、そもそも告知連絡
の手段が限られていました。そ
こで、メルアドを集める作業から
開始をしました。

まず100周年記念サイト
を立ち上げ、そのサイト内から
メルアドの登録を呼びかけまし
た。業界別や部活動、卒年同期
などそれぞれお声がけいただい
たこと大変感謝しています。こ
の100周年サイトへの集約とメ
ルアド登録は半年で550件以
上の登録をいただくことが出来
ました。このメルアド登録は連
絡コストを下げまた、引越しなど

転居不明の場合でもフォロー
可能となるため、100周年イベ
ント終了後も継続していきます。
さて、当日のオンラインイベン
トですがコロナ禍では全員が一同に
会することは出来ないのです、メッ
セージを事前にビデオ撮影しY
outubeで「番組配信」の形式
で開催しました。Youtubeで
アーカイブしてありますので当
日参加出来ないOBにも事後で
ご視聴いただけたかと思えます。
また、当日に単に「番組配信」
するだけでは一方通行になり
「皆で集まる」という同窓会の
楽しみの半減してしまいます。
そこで、番組配信に合わせビデ
オ会議を活用し双方向のやり

100周年オンライン総会を終えて

企画・実行委員からのメッセージ

山田英也(平成38年卒)

記念式典の準備を通じ、多士
済々の海原会を実感しました。
いつでも、どこからでも繋がる
海原会に向け、会員の皆様と歩
んでいければ幸いです。

(副委員長)

川田洋之助(昭和46年卒)

海原会100周年おめでとう
ございました。私は今年で卒業
50年でした。私の通学していた
時はかなりバンカラで、現在の様

相とは違っていましたかね。でも、
自由を重んじる校風は居心地
満点でした。新型コロナで対面での
開催はかないませんでしたが半
年以上かけて、今日発達している
SNSでの開催を目指し色々委
員会で揉んで開催する事が出来
ました。これからの100年目
指し、良いスタートが切れたので
はないでしょうか？これからも
皆さん一丸となつて輪を広げて
まいりましょう！

岡本浩太郎(平成2年卒)

初参加者も多い初めてのオン
ライン開催でした。分科会活動
などの拡がりに繋がましょう。

古木棕(平成22年卒)

HP等やSNS等、広報面を
担当しました。海原会のさらな
る発展のきっかけとなるよう、こ
の勢いで頑張ります！

津村大樹(平成20年卒)

次の100周年にバトンを繋ぐ

取りを可能にしました。これに
より、他の参加者の顔を見るこ
とも出来ましたし、またメイ
ンルームとは別のルームで業界別・
卒年別の同窓会開くことも可能
でより少人数で会話を楽しむこ
とも出来ました。特に式典最
後の校歌斉唱では海城学園ブラ
スバンドのカラオケに合わせ「オン
ライン合唱」が実現し一体感が
出せました。

当日の様子は100周年記念
サイトにアーカイブされていま
す。こちらからご視聴いただけ
ます。また、メルアドの登録も
お忘れなく!!
<https://www.unabara100.com>

国井信男(昭和62年卒)

100周年記念総会の周知を
するにあたり、同期の結束と部活
OB会の縦繋がり的重要性を改
めて感じました。今後はオンライ
ンを加えることで、同窓の輪がさ
らに大きくなることを期待して
います。

(委員長)



平成29年卒 同期会 いつでもどこでも実感

平成29年卒は今年で満五十歳。この節目に完全オンラインによる海原会百周年総会開催の件を伺ったのが開催二週間前。ここから同窓生に総会開催の呼びかけを始めた。この呼びかけは瞬く間に広がり、私を含め初めて総会に参加した同窓生も多く居ました。またオンライン懇親会に合わせて平成29年卒の同窓会場も作り、旧交を深めることもできました。今回の呼びかけに協力頂いた平成29年卒の同窓生の皆さん、ありがとうございます。オンラインによる総会懇親会という初めての試みを見事に企画・実行頂いた海原会幹事の皆様にも、あらためて感謝申し上げます。海原会の更なる飛躍を感じる百周年総会でした。(樵 裕介)

昭和56年卒 同期会 木村先生のビデオメッセージ



我々昭和56年卒は今年卒業40周年を迎えました。節目の年にもかかわらず総会で徳光会長から記念品を贈呈されることも叶わず、せめて何か記念になることをと世話役で相談した結果、徳光会長より組担任木村直毅先生(数学)からお祝いのビデオメッセージを頂戴することができました。メッセージはYouTubeで限定公開し、「海原会100周年記念サイト」から連絡先を登録した同期の皆さんと共有しています。まだ登録がお済みでない方はぜひ登録をお願いします。(内田玄司)

野球部OB会 リモートでの活動も模索

海原会100周年、誠におめでとうございます。また学園創立130周年につき、母校の発展を光栄に思っております。現役部員たちが、秋季都大会においてブロック大会を勝ち上がり、本大会(10月開催)で1回戦を勝ち、1966年以後の勝利で花を添えたことは、二重の喜びでした。

今回の記念総会のタイミングで、田中政一先生からは「野球部での43年間は楽しい思い出です。」とのメッセージを頂きました。野球部OB会も、学校での総会やソフトボール大会等の活動が実施できませんが、今総会のZOOM開催のノウハウを参考に、今後の活動を模索して活性化していきたいと考えています。

(野球部OB会長 昭和53年卒 深田 誠)

海原会執行部報告

総務委員長 昭和41年卒

福島賢哉

コロナ禍で海原会は今年も引き続き大きな制約を受けた中での活動を余儀なくされました。事務作業は学園から入校許可を頂いた範囲内で行われましたが役員会など執行部の連絡協議はZOOMやLINEでのやりとりとなりました。2年近くZOOMで会議をしてきてその扱いは慣れてきたものの言葉は伝わるが心や思いが今一つ伝わりきらないようなものを感じながらの運営でした。これがコロナ時代の「通常」なのかな、などと思いつつも早く今まで通り皆が自由に集える状態に戻らないかなと熱望する毎日でした。そんな状況のなかで海原会にとって今年度の最大の課題でありました「海原会100周年記念総会・式典」をYoutubeを使ってオンラインによりライブで開催することが出来たということは大きな成果だったといえます。

会にとってこの催しは将来に向けての大きな一歩となり次の100周年に向けて新たな海原会の始まりを感じさせます。

なお、100周年を記念し海原会の活動に多大な貢献をされた方々を顕彰させていただきます。ご存命で現在の海原会の活動の基礎作りにご尽力を頂いた個人の方々と団体を役員会で討議、選定をさせていただきます。戦前のOBが中心に立ち上げた湘南海原会は地域海原会の先駆けとして地道にコンソツと活動を続けられその活動は30年を超えました。現在もバトンは後輩に受け継がれ会員の地域の輪を広げるべく活動を続けられています。

その他6月以降の活動や検討状況

・決算・予算案について

本事業は早くから「100周年事業特別委員会」を立上げ準備を進めてきました。当初は通常の総会とは別に記念式典を企画していましたが、総会が中止、記念式典の対面での開催も無理という状況から急遽役員会で事業委員会と協議して、オンラインでの実施に切り替えて、100周年事業と総会を合体させ、「100周年記念総会」として実施することとしました。様々な意見のある中、見事に先進技術を駆使しあの感動的なデジタル総会が開催できたのは事業特別委員の皆様が一丸となって力を合わせた成果です。紙面を借りて委員の皆様

・第10回海城ゴルフ大会について

今年度は実施予定で準備を進めておりましたがコロナの収束が見込めないため中止といたしました。なお、ゴルフ部会は会のメンバーを中心とした有志によるゴルフコン

・「海原会サロン」について

10月30日に海城祭が開催され、海原会の歴史を中心にビデオを作成しオンラインで参加をしました。海城祭は入校制限で在校生とその保護者と家族のみの参加で1日だけ行われました。来年は通常開催が出ることを切に願っています。

・「卒年記念品」について

今年度も総会が中止となりオンライン開催となったため卒年記念品の配布も取り止めました。来年度以降、対面での総会開催が可能になった際には中止となった総会での対象年次の方への配布ができるよう検討しております。なお卒業20周年記念のス

ポータオルの在庫が僅少となったため新たに校章の刺繍入りタオルを製作補充を行いました。

・成人を祝う会について

今年度の成人式は現時点では未定との事ですが開催されたときには例年通りの後援が出来よう予算を組んでいます。

海原会サロンオンラインで参加

今年も海城祭にオンラインで参加しました。緊急事態宣言の延長もあり海城祭の日程が10月30日の1日開催に変更になりました。今年は生徒の他に家族も参加できるようになり昨年よりは少しだけ入場制限が緩和された感があります。コロナ禍、日程変更や開催期日短縮などの苦境をものともせず文実を筆頭に生徒全員が工夫に工夫を重ね若き溢れる新しい海城祭を作り上げてくれました。

を作成し出品しました。

2年続けてのオンライン参加となり来場者に直接触れ合う機会を持てなかったことは誠に残念ですが生徒達とともにこのコロナ禍で何が出来たのか一緒に考えられたことは貴重な体験となりました。まだまだ気は抜けませんが来年は通常海城祭になると信じその準備だけは始めて行きたいと考えています。

海原会はオンラインで海原会の歴史をメインとした動画

(海原会サロン支配人 昭和41年卒 森山昭洋)

2021年度予算

(3月31日)

単位=円

算	2020年度決算	2021年度予算	備 考
0,000	1,683,000	2,000,000	
0,000	637,000	600,000	
0,000	3,230,000	3,130,000	卒業生313名を予定
0	0	0	コロナ禍により総会中止の為
0,000	140,000	200,000	寄付他 近年の実績を考慮
0,000	60	1,000	受取利息他
0,000	5,690,060	5,931,000	
算	2020年度決算	2021年度予算	備 考
0,000	22,110	30,000	ZOOM利用費
0	0	0	コロナ禍により総会中止の為
0,000	4,520,820	4,800,000	53・54号とも発行部数17,700部で見積
0,000	0	50,000	前年度予算より減少
0,000	163,445	170,000	会員所在確認の為の郵送費
0,000	200,000	200,000	吹奏楽団後援
0,000	0	20,000	
0,000	45,928	30,000	
0,000	53,857	60,000	前年度実績を考慮
0,000	163,630	150,000	
0,000	20,000	20,000	実績から受賞者2名で予算確保
0,000	3,058	200,000	HPのセキュリティ強化予算の確保
0,000	0	50,000	前年度予算額を確保
0,000	0	200,000	成人式祝い金他 前年度予算額を確保
0	0	300,000	記念品購入予定額
0	0	1,800,000	百周年記念事業の見込み額
0	0	0	収益事業廃止の為税負担無し
0,000	5,192,848	8,080,000	
8,898	10,835,898	11,333,110	
0,000	497,212	▲2,149,000	
8,898	11,333,110	9,184,110	

厚く御礼を申し上げます。

総会の模様、詳細は本会報の記事をご覧ください。ただ、年々、総会に出席する多くの会員の皆様、オンライン総会にご参加され、画面を共有できたことは大きな喜びにつながりました。最後の校歌斉唱は感動の一瞬であったとの声を多くいただきました。

ペを行うなど徐々に活動を開始しています。

「見学会」について

昨年計画し最終的に中止した自衛隊横須賀基地の見学会を今年も検討してきましたが今年も中止を決めました。見学会では引き続き状況を見ながら検討を進めます。



法人事務局
入試広報室

塩田 顕二郎
(平成3年卒)

9月6日から2学期始業

デルタ株が猛威を振るい、若年層にも感染が急速に拡大したことや医療提供体制の逼迫といった社会状況を受けて、2学期の始業式は9月1日から9月6日へと延期し、翌7日より授業が開始されました。しかし、食事の感染リスクが高いことから40分授業×5時間とし、課外活動も原則中止となり、昼食を摂らず下校する措置を取りました。また、9月18日・19日に予定されていた海城祭の延期も決まりました。

9月21日からは昼食を再開し、6時間授業となり、10月4日からは、45分授業×6時間の従前の時間割に復しました。課外活動も感染状況を見ながら、活動日や活動時間に一定の制約をつけた形で段階的に再開していきましました。

このように、海城では生徒同士が共に活動することの教育的意義と、生徒の精神的健康に与える好影響を重視して、オンライン授業や分散登校などは行わず、生徒が毎日登校して対面で授業を受けることにしました。

今後とも日々変化する感染状況を注視しながら、感染防止に努め、生徒たちの学びを止めぬよう学校運営に取り組んでまいります。



写真 (平成3年卒) 塩田 顕二郎

2020年度決算

(2020年4月1日～2022年)

収入の部	2020年度予
永年会費	2,300
年度会費	600
入会金	3,230
総会参加費	
寄付金	200
雑収入	1
合計	6,331

支出の部	2020年度予
会議費	50
総会運営費	
会報印刷発送費	4,900
会報編集費	100
通信費	200
後援活動補助	200
慶弔費	20
振替手数料	30
賃借料	120
事務費	150
海原会賞	30
備品費	200
海城祭参加費	50
寄付金	200
記念品費	
百周年記念事業費	
法人税等	
合計	6,250

前年度繰越利益金	10,835
当年度損益	81
次年度繰越利益金	10,916

海城祭と学校説明会

海城祭は、10月30日に延期となり、生徒と家族の参加で1日だけの内部開催となりました。

海城祭当日、多くの保護者の方がご家族で来校されました。保護者にとっても久しぶりの「登校」でしたし、新理科館の中に入るのは初めてなので、みなさん大変楽しそうに校内を回っていました。

また、外部の方に向けては「オンライン海城祭」が今年もYouTubeで次々と配信されており、今も見ることができます。動画編集のスキルやセンスには驚かされますので、ぜひご覧ください。さらに、今年は新企画としてZoomを用いたライブ企画も開催。小学生とリアルタイム・双方向で一緒に参加できる企画を考えたのです。そのなかでも1番人気は「一緒に化石探し」。事前に参加者の元には化石が届けられ、地学部が画面越しにアドバイスを送りながら、小学生がトンカチやドライバーを持って化石を掘り出していくという企画でした。

オンライン海城祭もYouTubeとZoomを巧みに活用してどんどん進化をしていますね。

8月に予定していた学校説明会は11月に延期となりました。感染対策から、講堂に集めて説明する以前の形式は取らず、学校概説や入試の説明などは動画で配信しています。校内各所の展示やプレゼンを見ながら回るオープンキャンパス形式を採用し、事前予約・入替制で行いました。2年ぶりに開かれる学校説明会とあつて、受験生や受験生保護者の関心も非常に高く、約5000名の定員が8分で予約締め切りとなりました。

延期されたことで新理科館も公開することができて、大変好評でした。また、スタッフとして参加してくれた生徒たちの振る舞いが実に紳士的で「ぜひ、海城に入学させたいと思いました」との声をアンケートで多数頂戴しました。

ポストコロナの経営を 模索する2代目社長

株式会社 日本消音研究所

荒尾純平 さん

あらおじゅんべい（昭和57年卒）



コロナ禍は貴重な時間

「五輪の建設ラッシュも終わって、加えてコロナで、今期の業績は大きく落ち込んでます。バブル崩壊のころのような状況ですね」と言いながらも荒尾さんの口ぶりに深刻さはない。逆に「自分のような中小企業がポストコロナの時代を生き抜いて成長して継続していくにはどうしたらいいのか、これからの

会社のあり方とか社長としてやるべきこととかじっくりと考えたり勉強する時間を持てた」と喜んでようにみえる。このコロナ禍は荒尾さんにとって経営者としての自覚と責任を新たにする有意義な期間のようだ。

父親の会社を継ぐ

荒尾さんの会社は空調機器の送風音を減衰させる消音機器を作っている会社だ。空調機器に付随して設置されるので一般の人の目に触れることは少ないのであまり知られてないが、日本全国の大規模マンションや事務所ビル

遊びを卒業して仕事に没頭

や施設、美術館、音楽ホール、さらにはテレビスタジオなどの空調設備の消音ほとんどすべて同社が手がけている。実は海城学園の新しい理科館の空調設備の消音もやっているという。というわけで業界ではかなりの歴史と実績のある会社である。「私が高校一年の頃親父が始めた会社です。でも父親は仕事を採算を度外視してもやるような職人気質の人で、会社はいつ潰れてもおかしくない状態でした」。そんな父親の仕事ぶりを見ていて荒尾青年は早い段階から「俺が会社経営をやる」と思っていたという。そのため早稲田の商学部に進学する。

しかしすんなりと経営者になった訳ではなかった。「就職の心配がなかったこともあって大学では麻雀、テニス、バイトに明け暮れ、とにかく遊んでいました」。でも2年半位たった時、「もう十分遊んだという気持ちになつて」心を入れ替え生活を一変させたという。会社に入ってから工場から営業、経理すべての部門に席を置きとにかく仕事は人の2倍3倍やっていたという。「それぞれの部門でも一番知っているのは自分だといえるような仕事しましたね」。もちろん社長の跡

取りとしての自覚もあったが、何事も徹底してやるのが荒尾さんの性格のようだ。

社長としての自覚と責任

入社して15年ほどたった38歳のころ荒尾さんは父親から社長を継いだ。バブル崩壊で建設ラッシュも終わってこれからどうしようかという時だった。「はじめはとにかくリスクを軽減して財務体質の改善強化をはかるのが課題でした。専務とかで経理も担当していました。やはり社長になって見る数字は全然違います。その頃の従業員は40名ぐらいですが、その人たちが将来を担っているのだという社長という立場の重責をそのときに自覚した」という。とはいえ「はじめは社員従業員を幸せにしてやるのは俺だという強いリーダー意識が強く、そのことが逆に人に過度の要求をしたり、人の粗を探して文句ばかり言っていた。いま思えば不遜でいやな社長だったと思います」。

コロナ後の経営とエイジシフト

いま従業員も90人を抱える企業にまで成長させてきた荒尾さんにとってポストコロナの経営環境がどうなるかが一番の関心事だ。五輪の建設ブームが終わってこの先大

きな建築建設ブームが起るとは考えにくい。特にコロナ禍は環境や格差や仕事に対する意識変化といった社会意識の変化をもたらしている。企業も仕事のあり方、会社という組織のあり方を問われることになる。荒尾さんはみている。「この先は高齢者も働き続けられ、若い人も入ってくるような仕組み作りが必要だと思っています。それにはかつての強いリーダーが引退するというピラミッド型の組織ではなく、個人個人が事業主のようになってプロジェクトごとに集まって動くような組織が求められると考えています。会社はその関わる個人個人がそれぞれ思う幸せを実現できる場であればいいし、社長の仕事はその仕組みや環境を創ることにあるのだといまは思っています」。荒尾さんの今の唯一の趣味はゴルフだという。「ゴルフはよりよい結果を得るためにひたすら努力する、努力できるものだから好きです。一人でできるのがいいです」という。どこまでも徹底している。「エイジシフトを達成するのが目標」ともいう。荒尾さんの年齢を考えれば10年前後くらいには実現可能になるかもしれない。会社もゴルフも10年先を見据えて動き始めている。

（小西洋也 記）

われら 海城人

ポストコロナを見据える 出版プロデューサー

松下憲一 さん

まつした けんいち（平成10年卒）



時代の一步先を読んで時流に乗るのが仕事ともいえる出版業界を取材したらポストコロナの社会変化の方向も少しは見えてくるかもしれない。そんなことから教養本や実用書から趣味の本、マンガなどの娯楽書などまで幅広く手がける日本文芸社という出版社で編集者をしている松下さんを訪ねた。「いま会社の仕事はほぼすべてオンラインですよ。出版社のは月に二回程度です。すでに会社はコ

ロナが収束してもテレワークを続ける」と宣言していますしこのまま在宅勤務が続きます。いまは在宅巣ごもり需要で教養本や実用本などの売り

す。しかも取材する相手側の意識も大きく変わってきているようで、リモートでの取材が当たり前になり、同時にその取材場面を動画でライブのトークショーとして有料配信することや、収録した動画を再編集してYouTubeなどで配信することを含めて受けてもらえるようになっているという。「これはコロナの影響もあるのでしょうか、特にアスリート、スポーツ選手たちは子供たちの未来のためにとか子供たちに勇気を与えたいとかということでのような多目的出演を受けてくれるようになった気がします」。松下さんも、五輪前の雑誌の企画で何人かの選手にこのような形で登場

思っているようです。本に対する信頼はまだ強いものがあります」という。そんな中で松下さんは最近野球少年の母親を意識した「少年野球スコアのつけ方」という本を作ったという。「スコアブック本はこれまでいづれも男性それも大人を対象としたイメージが強いものばかりでした。お母さんでも手に取ってもらえるように工夫して作りました。これが意外に好評で」と手心を感している。中学から高校卒業までの6年間野球部に所属していた松下さんの野球の思いは強い。いまは近くの少年野球チームのコーチをやっているこの本作りにもその経験が生きているという。「ずっと控

いうか経歴がある。それはプロの雀士として大学4年間を過ごしたというものだ。最終的には「この世界に目指すものや憧れるものはない」と卒業間際にきっぱりやめたという。勉強を全くしてなかったが「今で言うギャンブル依存症問題を卒論として提出して無事卒業できました」。しかも現在の会社に就職できたのも「麻雀のプロだったという経歴が決めた手だったと思います。300人ぐらいいた中で採用されたのは6人ですが編集は私一人でしたから」。松下さんは中学時代からなんとなく人の心を読んだり心理を考えたりすることに興味があったといいます。早稲田の人間科学部



上げが伸びているようです。しかも本雑誌の電子化が進んで、いまマンガなどの娯楽本の売り上げの7割は電子版になっています」。

進むデジタル化

このコロナの2年間あまりで仕事の身なり方は激変した。「いまは出版編集部門の全員がテレワークで仕事をしています。取材もリモートで少し編集も画像配信処理も自宅でやってま

ポストコロナに求められる物

えのピッチャーだったのですよ。でも野球が好きでしたから続けていられたのですが、コーチをしていても控え選手が気になりそんな選手や付き添いの母親さんに声をかけたりしててこんな本があったらいいのではと思って。特にポストコロナだからということを意識したも

異色の経歴が支え

を選んだのもそんなことからだった。「いま思えば野球でピッチャーをやっていたことも麻雀のプロになったのも相手の心を読むという心理学的なところで共通するところがあつたのかもしれない」と自ら分析する。松下さんはいま本を作るという創造的な仕事ができる環境にいたいことを幸運と思っている。野球と麻雀の世界で鍛え研ぎ澄ました変化を見る目、対応力、心理分析力を活かしてポストコロナの読者の心をどのようにつかむか楽しみだ。

(小西洋也 記)

(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

黒岩直輝さん
くろいわなおき(平成14年生)

文実・生徒会

コロナ禍で開催された東京オリンピック・パラリンピック競技大会は、直前まで開催の賛否が分かれていた。しかし、多くの人が大会でのアスリートの躍動に感動しただろう。黒岩さんは、2006年に電通に入社。2014年から7年間、「東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会」に出向し、委員会立ち上げ時点から大会終了まで、大会開催を支えた。

大学時代「アジア」との交流団体を設立

このTV会議企画での経験を乗り越えたという思いもあり、大学時代に「アジアユースサミット」というアジアの学生との交流団体を立ち上げる。団体では、スタディーツアーという形で、日韓の学生が日本と韓国を互に行き来し、歴史的な場所を訪問したり、ホームステイするなどの活動を行った。高校、大学時代に国際交流をした経験から、「グローバルな仕事をしたい」との思いがあり電通に就職し、スポーツ関係の仕事に携わる。

入社2年目の2008年から約2年間、日本オリンピック委員会(以下「JOC」)に出向。黒岩さんと五輪との関わりはここからスタートする。マーケティング部門の一員として資金集めやJOCとの交渉などに力を発揮。スイス・ローザンヌのJOC本部に赴き、「大げさかもしれませんが、日本を背負って交渉している思いがありました」という自負を持つて、JOCとの交渉に臨んだ。そして、東京



文実での活動を通じて、『みんなで一つのものを作り上げる』こと』の面白さ、素晴らしさにやりがいを感じた。このことは、海城時代だけでなく、大学時代そして社会人になって五輪開催に関わった今でも、黒岩さんにとっての原点となる。

文実の活動を経験した後、黒岩さんは生徒会長選挙に立候補し見事当選する。生徒会活動では、他校との連携にも力を入れた。日韓の歴史的な壁を解決したいという思い

の組織委員会では主にスポンサーとの契約締結の業務を担った。スポンサー契約1つについても、JOCの承認が必要となるらしい。組織委員会の様々な立場を認めさせるべく、JOCとの交渉を担った。コロナ禍となった大会期間中は、海外のスポンサー関係者が入国する際にPCR検査を受けたか、隔離期間を守っているかなどのルールのチェックも担当した。

東京五輪開催の1年延期の決定について、黒岩さんは「ニュースを見て初めて知った」という。しかし、延期決定の数日前に、万一の延期を想定して1年延期、2年延期という2パターンでのシミュレーションを行い、上司に提出していた。延期による各種契約の変更を有利に進めるためだ。「マスコミは支出のことはかなり話題にしますが、歴代の五輪の中でスポンサー収入は過去最高でした。」資金集めの業務を担っていた黒岩さんの自負がそう言わせたのだろう。

(横嶋良太 記)

夢は選手としてオリンピック出場？

黒岩さんは、特にパラリンピックでアスリートが躍動する姿に感動し、「自分も競技する側になりたい」という思いを持ったという。「最近カリーニングの練習を始めたんです。どこまでできるかわからないけど、オリンピックに出場できたら面白いなと思ってるんです」

仕事、プライベートも含めると、2008年の北京オリンピックから東京まで(ソチを除く)すべての五輪がパラリンピックを訪れたほど黒岩さんの五輪愛は深い。いま札幌が冬季オリンピック招致を目指しているという「もし札幌での五輪開催が決定したらまた関わりたいです!」。五輪との関わりはこれからも続いていくのだろう。

新理科館と私

新理科館が6月末に竣工し、9月からは授業がおこなわれている。

2017年から、設計・旧3号館解体工事 新理科館

新理科館(3号館:サイエンスセンター)

4年以上にわたり計画に参画

平成元年卒 斉藤政弘 (株式会社久米設計)



新築工事と4年以上の期間にわたり、この計画に参画させて頂いた。私は高校から入学したクチなので、学生時代より長く通い続けたことになる。卒業以来、校舎も順次更新され、学生時代を過ごした校舎がまた一つ減ってしまったことは残念だが、南から正門・前庭・グランドというキャンパス構成の背骨にあたる

部分は今後も受け継がれていってほしいと思う。理科専用の新しい校舎では、物理・化学・生物・地学の4科で充実した授業が行われる各実験室の環境整備はもちろ、理科として4科を横断した協働や発信、各フロアだけでとどまらない日常的な「見る・見られる」をはじめとする生徒たちの交流が、前庭も含めて生まれやすい環境づくりを目指した。

また、理科の授業ででる自然科学の法則や原理等に基づき、それらを日常的に体験できるように、結露による除湿が見れる輻射空調方式や、調湿効果のある多孔質の大谷石の壁、更には地下掘削中に採取した校舎下の

地層剥ぎ取り標本の展示など、好奇心を刺激する仕掛けとして簡単な説明サインとともに随所に配置した。

新理科館は学校の塀やフェンスの中にあるのではなく、新大久保駅からのアクセスする道路に直接面した、まさに学校の顔となる場所に位置している。以前の緑豊かな薬山のイメージを極力継承すべく、既存樹木の移植を含めバルコニーや屋上にできるだけ緑を設けるとともに、屋上緑地は薬山状にすることで植物が立体的に見えることを心掛けた。線路沿いからもこれらの樹木がよく見え、校舎の特徴の一つとなっている。

また、屋上に上がることでできる海城の中では珍しい校舎であり、斜め屋根の屋上緑地からは新宿高層ビル群の夜景を一望できる。2号館からも夜景を見ることができ、窓枠のないパノラマでの迫力は格別で、いろいろ難しいとは思いますが、BBO等できたら最高の場所だろうと思う。想像してしまおう。

竣工以降、多くの方に新理科館を見て頂き、「学生時代にこんな施設があれば、理科が好きになつていったかもしれない」という感想を頂くことがあった。まさに新理科館の環境がきっかけの一つとなつて、理科好き男子、果てはその方面のプロフェッショナルに将来なつていく生徒が一人でも多く生まれてくることを期待している。

父と海城

今の中学受験生は、様々な学校の文化祭や説明会に参加し、自分の目でその学校の雰囲気などを感じ取り、志望校を決める参考にしている。しかし、私が中学受験をした時代は、学校を見学できる機会はほとんどなく、私が海城の門を初めてくぐったのは入試当日だった。

海軍兵学校からつながる海城との縁

平成3年卒 塩田顕二郎

偏差値、男子校……いろんな条件から志望校にしたと思うが、一番の理由は父が「海城は、海軍兵学校と関わり

てきたので、私にいわゆる一流と言われるような民間企業に就職して欲しいと願っていたのだ。だから大学時代は何度も言い争いをしたし、時には手紙を書いて説得を試みた。最後は私がいつまでも諦めないで父の方が折れたわけだが、大学卒業後すぐ、開校したばかりの那須高原海城に勤務できたのは父のおかげだと思っている。

と言うのも、私が高校2年生のとき、父は会社役員として最も多忙な時期だったと思うが、海城のPTA会長としての職を引き受けた。このときの学年主任は飯塚佐一先



同じ社宅に暮らし、同じ小学校に通い、年中遊んでいた男の子と女の子と海城でそれぞれ再会するのだ。ひとりは学校から帰ると毎日社宅の空き地でキャッチボールをしていたY君驚くことに海城高校に入学してきて、また同級生になったのだ。もうひとりとは社宅の集会所でよく遊んだYさん。3年前「塩田君だよ」と突然声をかけられた。なんと息子さんが海城生となつてお母さんとして海城祭に来ていたのだ。数年間たまたま同じ社宅で暮らし、いた小学校の同級生2人と海城で再会するなんて。人

では、なぜ私は海城を第1志望に選んだのか。立地、



ある学校から受けてはどうかと薦めたことだ。

昭和3年に鹿児島県串木野市で生まれた父は、川内
中学から海軍兵学校へと進んだ。76期生で戦地に赴くこ
とはなかったが、許嫁を残して出征した兄と串木野の海で
遊んだ4人の幼馴染みを戦争で失っている父は、常々「戦
争だけはあつてはならない」と話していた。おそらく、父の
「不戦・絶対平和」を貫いてきた姿勢が私にも少なから
ず影響を与え、大学で日本史を専攻し、社会科の教員に
なったのだと思う。

しかし、父は私が教員を目指すことを強く反対してい
た。父は高度経済成長期に「モレッツ社員」として頑張っ

生。のちに那須海城の教頭・2代目校長となり、結婚式

では仲間もしていたのだが、母校での教育実習を終
えたあと、飯塚先生から「那須に新しい学校ができるから
やつてみないか」と声をかけていたのだ。父がPTA
会長として学園のために尽力してくれたことが、母校に勤
める後押しになったと思う。そして、私が教壇に立つ
ようになってからは那須海城での文化祭には毎年必ず足
を運んでくれるなど、教員になった私を一番応援してくれ
たのは父だった。

父が導いてくれた海城の縁は他にもある。私は父の転
勤で6歳から9歳まで千葉県市原市の社宅で過ごした。

生うて不思議だ。

こうやって振り返ってみると、12歳のとき父が私を海城
に導いてくれたことが、あらゆる場面で私の「今」に繋がっ
ている。心から感謝したい。

その父が9月に93歳で亡くなった。自宅で家族全員に
見守られながらの旅立ちであった。

かつて父と江田島を訪れたことがある。宇品港から江
田島に向かう船で父はずっと黙って前方の海を眺めていた。
戦死した兄や4人の同級生のことを思っていたに違いない。

いつかまた、父が大好きだった串木野と江田島の見
に行こうと思う。

コロナ禍の留学

ハーバードへの進学が決定した矢先に新型コロナウイルス
の流行が始まり、大学も対面授業を停止したため、昨年9
月の入学以来1年間、日本からオンライン授業を受講す
る形で学習を進めることとなりました。留学を開始で
きないもどかしさを感じつつも、ハーバードで学ぶという機
会の貴重さを実感しながら毎日を過ごしてきました。

アメリカの大

オンライン授業も充実の一年 対面授業開始でさらに挑戦

ハーバード大学政治学部2年 山田健人

学の特徴として、
二つの授業の
準備にかけるべ
き時間が非常に
長いことが挙げ
られます。講義
に参加するにあ
たって、事前に大量の文献を読むことが求められるほか、
講義の終了後には、少人数のグループに分かれて文献や
講義の内容に関して討論をする機会が設けられています。
また、レポートを書く際も、事前に教授に内容を相談し、
助言をもらいつつ執筆します。さらに、各教授が生徒か
らの質問や意見を受け付ける「オフィスアワー」と呼ばれ
る時間を設けており、この時間を積極的に活用すること
により、教授の考えを直接知ることができます。幸い、こ
うした制度はオンラインでも継続され、日本にいながらに
して刺激的な学びを経験することができました。

また、授業外でも、学部生から研究助手を登用する制
度が発達しており、私もこれまで2名の教授の研究助手
を務めてきました。文献収集・分析、データ分析等の仕
事をこなし、教授に結果を報告する中で、間近に教授の
研究に触れることができたため、論文だけでは知り得な
いような教授の考えを深く知ることができました。また、
助手という立場ながら、自分の見解を積極的に発表する
ことが求められたため、的を射た意見を効果的にまとめ
る力に磨きをかけることができました。

このように、オンラインという形ながら充実した1年目
を過ごし、今学
期より、いよいよ
キャンパスでの大
学生活を始める
こととなりました
。対面で他の
学生と議論し、ま
た教授と意見を
交わす日々は、この上なく充実しています。オンラインと
いう制約がなくなり、先述のグループ討論や「オフィスア
ワー」等を使う存分活用できるようになりましたが、や
はり、こうした機会をどのように活かすのかは自分次第
だと感じています。多忙を極めつつも、入念に授業の準備
をし、教授に積極的に質問し、また研究活動や課外活動
にも精力的に関わることで、貴重な成長の機会を存分に
活用するように心がけています。今後でも在学中お世話に
なつた方々への感謝の気持ちを忘れずに、挑戦を続けてい
こうと思います。

永年会費納入者

(敬称略)

訂正

2019年5月発行49号8ページの永年会費納入者の欄で、日向寺
(昭51)を日向 寺朗さんと記載していました。
2021年6月発行53号7ページの永年会費納入者の欄で、松藤 寛さん
(平20)を松崎 寛さんと記載していました。
訂正してお詫びいたします。

平成09	堀口 雅則	平成29	青木 遼	平成08	石澤 賢
平成19	安藤 隆介 (四万円)	昭和26	田辺 幸巨 (追加二千元)	令和03	島 倫太郎
昭和41	中森 進一 (三万三千元)	昭和44	今沢 清 (追加一万円)	令和03	富永 雄仁
令和03	古口 佳央	昭和46	井口 茂樹 (追加二万円)	令和02	市田 悠貴
昭和40	海保 正人	昭和58	安藤 恒次	令和03	岡本 大輝
昭和47	清水 正直	昭和51	阿部 剛典 (三万五千元)	平成16	樋口 宜修
令和03	永瀬 論	昭和43	安田 隆 (寄付七千元)	昭和61	森 大助
平成30	野上 峻	令和03	小田 知宙	昭和51	渡辺 義則 (追加三万円)
昭和51	佐藤 敏行 (追加二万円)	昭和43	安田 隆 (寄付一万元)	平成28	糸久 和集
昭和57	狐塚 盛広 (追加二千元)	平成11	駒場 悠歩	昭和63	近藤 昇久
令和03	松島 弘武	昭和53	藤井 雅人 (追加十万元)	令和02	村上 蓮
昭和44	海老原有之 (五万円)	昭和19	小倉 康弘	平成23	出口 翔大
平成21	関口 和樹	昭和03	山藤 充貴	令和03	甘利 稜馬
令和02	小峯 雅正	昭和29	鈴木 章弘	平成04	新井 健郎
平成30	高橋 英佑	昭和36	佐藤 洋介	平成24	齊藤 大幹
平成23	奥富 宇覧 (三万五千元)	昭和59	宇喜多弘幸 (十万円)	令和03	趙 家祥
平成26	川名 泰夢	令和03	中野 和真	令和02	佐々木 洸大
令和02	小峯 雅正	昭和36	佐藤 洋介	平成19	藤岡 篤

留守電の対応見合わせ

留守番電話の対応につきましては、新型コロナウイルスの影響で迅速な対応が難しいことなどから、10月いっぱいでは当分の間対応を見合わせます。今後は、FAXかHPの「海原会へのお問い合わせ・ご連絡」からご連絡ください。

なお、海原会には常駐のスタッフはおりません。海原会の電話は作業のある日以外は繋がりません。また、海城学園に電話をかけることは業務の妨げになりますのでご遠慮ください。

振込用紙についてお願い

- 年会費及び永年会費は払込取扱票にてお支払いください。
- 年会費等を払込取扱票で支払う際に卒年を必ず記入してください。
- なお、払込取扱票は発送作業の関係上、永年会費等お支払いがあった方々にも毎号の会報に同封されています。
- 永年会費の払われた方の寄付も大歓迎です。

メアドの登録をお願いします!

海原会では住所宛への会報送付に加えて、メールによる情報発信を目指しています。百周年記念サイトからのメールアドレスの登録をお願いいたします。提供いただいたメールアドレスは海原会運営の目的以外で使用することはありません。詳細は海原会HP下段の「海原会における個人情報の取扱い」をご覧ください。

メアドの登録は下記からお願いいたします。

<https://www.unabara100.com/>

住所確認 名簿整理協力

揭示板

会報が不達だった方の住所確認のために、改めて郵便はがきを出して再確認しています。

この確認はがきを出しても不達の場合は、住所不明者と判断し、会報の郵送を一時停止させていただきます。

ハガキを受け取られた方で住所変更などありましたら、必ず忘れずにHPの「海原会へのお問い合わせ・ご連絡」からお知らせください。

激励メッセージ募集

100周年記念サイトでは若手海城OBへテーマごとの激励メッセージを募集しています。

メッセージのテーマ

★令和2年卒新成人へメッセージ(1月9日まで)

★令和4年卒(新卒)へメッセージ(3月5日まで)

皆様、是非、コメントをお願いいたします。

【会報バックナンバー閲覧パスワード】

ホームページの活動レポートから会報のバックナンバーの閲覧ができます。閲覧にはパスワードを設定しております。ユーザー名はkaihouです。

パスワードは2021年12月14日までは「NeW:r1ka」

2021年12月15日からは「goTo:101」になります。

[illegible]

2021年5月発行53号8ページの追悼の欄で、楠本正幸さん(昭43)の旧姓が藤となっていました。正しくは加藤です。訂正してお詫びします。

計報

謹んでご冥福を
お祈り申し上げます。

編集担当

森山昭洋 (S41)
小西洋也 (S41)
国井信男 (S62)
岡本浩太郎 (H02)
横嶋良太 (H05)

◎今回の記念総会は完全オンラインというところで、リアルに集まることはできず、海原会と海原会員の接点はオンラインと会報という形になった。接点が変わることで言葉選びには丁寧さが求められた。編集の中で「これできちんと伝わるの?」というやり取りが何度もあった。伝え方の試行錯誤は今後も続く。

(国井)

◎100周年記念イベントには新たな層のOBの方々に関心を寄せただけでなく、点で大きな意義を感じました。(岡本)

◎100周年記念総会は想像をはるかに超えた素晴らしい感動しました。コロナの感染者が急激に減って本来なら喜んでいいはずなのに何故か安心できずに今まで通りの自粛生活を続けているこの年寄りを若い力が時代の先端へと導いてくれました。気候変動への警鐘も若い力が世界を動かしています。海原会も同じ若い力が大きく育っていると確信しました。会報のデジタル配信ももう間近なのか。紙媒体は捨て難い流れに乗れるかな。

(森山)

◎100周年記念イベントのオンライン開催は画期的だったと思います。一方で、従来のように一堂に会した形で総会・懇親会が再びできたらいなとも思いました。

(横嶋)

◎もはやオンラインの流れはコロナ後も加速こそすれ戻ることはないでしょう。となればそれに合わせてこれまでと違う仕事の仕方、勉強の仕方、コミュニケーションの取り方が求められるが、その最前線はどんなものなのだろう。(小西)

編集後記

※海原会は皆様の会費で運営されております。